

「インフルエンザ、風邪と薬 ～軽くみないで万病のもと～」

開催日 2009年12月6日
講師 中村 俊夫 (226-3529)

＜かぜ と インフルエンザ＞

	かぜ	インフルエンザ
初期症状	鼻、喉の違和感、くしゃみ	悪寒、頭痛
発熱	38℃以下	38℃以上、突然の高熱
全身症状	ほとんど無い	頭痛、関節痛、食欲不振
原因ウイルス	ライノウイルス、コロナウイルス	インフルエンザウイルスA、B型
経過	数日～1週間程度	1週間程度

＜インフルエンザウイルスと薬＞

A型：重症で、かなり広い範囲での流行及び世界的流行。

B型：地域的な発生を示したり、比較的広い範囲で流行。

C型：散発的に発生し、ごく限られた地域で発生し、比較的軽度。

A型とB型には表面にHA（ヘマグルチニン、細胞内への誘導を）とNA（ノイラミニダーゼ、感染細胞から遊離を）がある。

⇨NAの働きを阻害する タミフル、リレンザ

A型のみ膜たんぱく質がある。

⇨この働きを阻害して、感染や増殖を防ぐ

アマンタジン（シンメトレル パーキンソン症候群）

タミフル 死者71人、異常行動186人発生。

- ・ 日本感染症学会は、持病のない成人、子供にも抗ウイルス薬を投与すべきと提言している。新型インフルエンザ対策委員会座長渡辺彰（東北大学教授）は「海外に比べて日本の致死率が低いのはタミフルの早期投与による」と。
- ・ 一方、WHO や米疾病対策センターは持病のない患者への使用は不要としている。WHO 感染症地域アドバイザーの押谷仁（東北大学教授）は「死亡12人中8人がタミフル治療を受けていた。感染者のほとんどは軽症ですむものの、ウイルス性肺炎の重症化が特徴である」。

＜タミフルの主な使用上の注意＞

服用後に異常な行動やうわごとを言ったりすることが報告されています。

又、インフルエンザでなることもあります。（インフルエンザ脳症）

<ワクチン> インフルエンザHAワクチン

有効予防水準者 接種後 1 カ月で 77%、3 カ月後 78.8%、5 カ月後 50.8%
老人施設、病院の 65 才以上の人

発病阻止効果 34~55%、 死亡阻止効果 82%

発熱等全身反応 11.3%、 発赤など局所反応 11.6%

副作用 (0.1%未満) : ジンマシン、呼吸困難、血管浮腫、頭痛、けいれん、
運動障害、意識障害、発疹、発熱、悪寒、倦怠感 など

<かぜ薬>

解熱・鎮痛	アセトアミノフェン、イブプロフェン、エテンザミド、*PL
抗炎症	トラネキサム酸、ダーゼン
抗ヒスタミン	クロルフェニラミン <眠気に注意>
中枢神経興奮	無水カフェイン <眠気を相殺>
鎮咳	ジヒドロコデイン、ムコダイン、*ムコソルバン
気管支拡張	メチルエフェドリン
抗菌、抗ウイルス	*フロモックス、*クラビット、*タミフル

<かぜの一般療法>

基本的な対処として安静、保温・保湿、栄養摂取などです。

安静・・・・・・・・安静にし、体力の消耗を防ぐ 十分な睡眠を取る

保温、保湿・・・・薄着を避け、室内を暖かく保つ 室内の乾燥を防ぐ

栄養の摂取・・・・消化のよいものを摂る。発熱時は十分に水分を補給する。

<かぜの主な予防法>

- ① うがい、マスク（飛沫 2m）、手洗い
- ② 栄養バランスのよい食事
- ③ 普段から休養と睡眠を十分に
- ④ 人ごみを避ける
- ⑤ 適度の室温（18~20℃）と湿度（60~70%）